

## 平成 27 年度「発達障がいがある学生の就労準備支援事業」試行実施報告

## 1. 目的

大学や専門学校を卒業後、社会との繋がりが持てないまま無業状態に陥り相談来所する成人期の方の中には、アルバイトなどの就業経験がなく、卒業後の進路としての就業のイメージが持てず就職活動がうまくいかなかった事例が多い。今回は、学生支援室や進路指導担当部との連携のもと発達障がいがある学生が在学中に発達障がいの特性をふまえた講座や企業での実習体験を含む就労準備支援プログラムに参加することにより、就業イメージを持つこと、就労意欲を向上させること、各自に合った職業の選択を考えるきっかけとすることとし、困った時の対応や工夫を知り就労に向けた課題整理をおこなうきっかけとなることをめざす。また、学生支援者が発達障がいへの正しい理解と適切な対応への工夫を知り、障がい特性に配慮しながら進路指導等をおこなうための一助となるよう、また、結果として卒業後の無業状態を回避することを目指した。

## 2. 対象者（大阪市民）

## 事例 1：連携する大学に在学中の発達障がいがある学生

大阪市立大学工学部 4 回生 1 名 < 試行実施 >

（男性、22 歳、成人後診断「広汎性発達障がい」、バイト経験あり、一般企業での就職を希望）  
：「企業実習」を経験したいとのことでプログラム参加希望。第 1 クールに参加。

## 事例 2：他大学に在学中の発達障がいがある学生

関西大学システム理工学部 4 回生 1 名 < 試行実施 >

（男性、28 歳～2 つ目の大学、6 年前に「アスペルガー症候群」と診断、バイト経験あり、一般企業での就職を希望）：全プログラムに参加を希望。第 2 クールに参加するが、臨床検査技師の専門学校に合格が決まり、「企業実習」には参加しないこととなった。

\* 28 年 3 月の春休み期間実施プログラムへの参加者の学内選定を連携大学の学生支援室に依頼したが、対象となる学生がいなかったため他大学の学生支援室にアナウンスし、利用に至った。

## 3. 実施時期・場所・スタッフ

- ・実施時期...第 1 クール：10 月～11 月、第 2 クール：3 月
- ・スタッフ...エルムおおさか、サテライトオフィス平野、長居 S C
- ・実施場所...就労移行支援事業所（サテライトオフィス平野）、長居障がい者スポーツセンター、協力企業（実習）

## 4. 試行実施までの調整

- 6 月 連携先大学の選定および実施計画について協議  
（エルムおおさか、発達障がい者就業支援 C O、サテライトオフィス平野、福祉局担当職員）
- 6 月 連携先大学（大阪市立大学）との実施協議を開始
- 7 月～ 連携先大学学生支援室による学内アナウンス、学内での対象者選定
- 10 月 事前面談（ニーズの聴取）、体験受入れ企業への説明・獲得  
学内説明とともに教職員向け「実践講座」を計画（日程の関係から 28 年度に実施予定）

## 5. 実施スケジュール

第 1 クール：（日程調整しながらの実施、\* 本人の希望により作業実習はなし）

- 10 月 個別面談（ニーズ聴取、日程相談）... 学生支援室スタッフ同行
  - 1 日目：ガイダンス、基礎講座「感情のコントロール」「社会人マナー講座」
  - 2 日目：基礎講座  
「ストレスマネジメント」「エントリーシートの書き方講座」「自己理解セミナー」
- 11 月 3 日目：企業見学
  - 4～6 日目：企業体験 3 日間（含 企業での実習振り返り）
  - 7 日目：ふりかえり・課題整理...（大阪市立大学にて本人、担当教官、学生支援室、当スタッフ）

**第 2 クール：**(日程・内容ともにニーズに応じて調整しながら実施、\*進学のため「企業実習」は中止)

**3 月 個別面談**(ニーズ聴取、日程相談)

- 1 日目：ガイダンス、基礎講座「自己理解セミナー」
- 2 日目：基礎講座「FT: Face Training」「ストレスマネジメント」  
作業実習「エクセル (3 級レベル)」
- 3 日目：基礎講座「SST (会社内での場面設定)」  
作業実習「エクセル (2 級レベル)」「プログラミング (C 言語)」
- 4 日目：基礎講座「エントリーシートの書き方」「自己理解プログラム」  
作業実習「簿記 3 級」
- 5 日目：ふりかえり・課題整理...(卒業後、エルムおおさかにて本人、当スタッフにて)

## 6. 効果検証

### 1) 事例 1 :

- ・本人アンケートでは、個々のプログラム内容についても、プログラムに参加したことについても、すべて「参加してよかった」「役に立った」との評価であった(理解度・役立ち度ともに 4 点尺度で平均)。特に、希望していた「企業実習」については、本人の得意なコンピュータソフト分野での仕事であったこともあり、「指示した仕事がよくできていた」との企業側の実習評価に、「働く」ことへの自信を持つことができた、との感想を得た。
- ・支援者からの聴取では、学生のプログラム参加について「働く」ことへの自信が持てたこと、「ストレスマネジメント」のきっかけを知ったこと等には一定の評価を得た。ただし、話し合いの中で、本人の希望と状態を考えれば就職先は特殊な分野での一般雇用の就職をまずは目指す段階が必要であるとの結論に至り、就職先を探すのは大学研究室に負うところが大きい現状を再認識されることとなった。

### 2) 事例 2 :

- ・本人アンケートでは、個々のプログラム内容についても、参加したことについても、すべて「参加してよかった」「役に立った」との評価であった(理解度・役立ち度ともに 4 点尺度で平均 4)。特に、作業実習「エクセル」「簿記」「プログラム(C 言語)」については、これまで独学で学んだためにわからなかった内容が解明されたと同時に、ワープロがそこそこできることを実感する機会となったとの感想を得た。基礎講座にも積極的に参加
- ・支援者については、卒業前後の時期でのプログラム参加であったこと、卒業後の進路が決まったこと、エルムおおさかにはすでに個別相談済みであったこと等で、学生紹介と参加報告までの関わりとなった。

## 7. 今回の試行実施において見られた課題

- ・対象者・実施時期など：大学側より、「4 回生は卒論や就活で忙しいため、対象を 3 回生にした方が参加しやすいかもしれない」との意見をいただいた。また、夏休みや春休みもアルバイト、授業等で忙しい大学生の実態もわかり、プログラムの実施方法や実施時期を再考する必要があることがわかった。
- ・基礎講座：1 回ずつの講座であるため、「ストレスマネジメント」等は効果を十分に実感していただけないままに終わった講座もあり、就労準備支援プログラム終了後も日常生活で役立てていただけるような仕組みを考える必要性を感じた。
- ・作業実習：事例 1 は、本人の希望で作業実習をスキップしたが、施設内での作業実習を通した評価はより具体的に得意・不得意等について実感していただくためには必須の過程であると思われた。
- ・企業実習：障がい者雇用で連携している企業に協力していただいていたため、今回のようにクローズドで働くことを希望している場合は、一般の職場での体験にはなり難いところが課題である。
- ・大学：指導教官の先生方は、障がい者雇用を考えるべきか否か等、プログラム参加後に方向決定できればと思っておられた様子である。障がい者雇用での就労条件(一般雇用に比べて平均的に低い給与体制など)について説明したところ、苦手さのトレーニングでより良い一般企業を目指せないか、との質問もあった。事例 1 の場合は特殊な専門領域であるため、本人の能力を活かせる就職先は研究室への求人や教授からの紹介に頼るところが大きく、一般の就職活動でも難しい状態にある。ただ、卒業後、発達

### 資料 1 - 3

障がい者に特化した就労移行支援事業所や職業トレーニングの施設を活用するようになったとしても、就職先が本人のニーズに合うか否かが問題になってくるものと思われ、環境次第で一般雇用も可能と思われる事例 1 のような学生については、大学内の支援者がさまざまな進路を想定する必要がある。そのためにも、大学内の支援者の方たちに、具体的なケースを通して障がい者雇用や就労支援システムの良さについて知っていただくとともに、一般企業の中で特性に配慮しつつ能力を発揮してもらえるようなシステム作りをしている職場を開拓・情報収集し、情報提供していく必要を大きく感じた。

## 発達障がい者就業支援コーディネーター事業コラボ企画 2

## 平成 28 年度 発達障がいがある学生等の就労準備支援事業（案）

## 1. 目的

大学や専門学校を卒業後、社会との繋がりが持てないまま無業状態に陥り相談来所する成人期の方の中には、アルバイトなどの就業経験がなく、卒業後の進路としての就業のイメージが持てず就職活動がうまくいかなかった事例が多い。学生支援室や進路指導担当部との連携のもと、発達障がいがある学生が在学中に発達障がいの特性をふまえた講座や企業での実習体験を含む就労準備支援プログラムに参加することにより、就業イメージを持つこと、就労意欲を向上させること、各自に合った職業の選択を考えるきっかけとすることとし、困った時の対応や工夫を知り就労に向けた課題整理をおこなうきっかけとなることをめざす。また、学生支援者が発達障がいへの正しい理解と適切な対応への工夫を知り、障がい特性に配慮しながら進路指導等をおこなうための一助となるよう、また、結果として卒業後の無業状態を回避することを目指す。

## 2. 対象者

連携する大学等（大阪市立大学等）に在学中の発達障がいがある学生、学生支援者

## 3. 実施期間・場所

- ・実施期間... 7月～2月（ガイダンス、自己理解等講座、企業実習等）
- ・実施場所... 連携就労移行支援事業所（サテライトオフィス平野）  
長居障がい者スポーツセンター、協力企業（仕事体験、企業実習）

## 4. 事業内容

< 発達障がいがある学生等 >

- ガイダンス：「就労について話そう会」
- 講座受講：「自己理解講座」「社会人マナー講座」  
「仕事体験」  
「ストレスマネジメント」「SST（対人コミュニケーション等）」  
「企業実習」
- 講座受講・ふりかえり：「就労に向けた課題整理」

< 学生支援者等 >

- ・連携先大学教職員（学生支援者等）への「発達障がいの理解と支援」「体験談」等
- ・専修学校等への出前講座「発達障がいの理解と支援」「社会資源の活用」等

## 5. 事業実施までの調整等

- 6月～7月 連携先大学等への事業協力依頼（数か所の大学へ依頼予定）  
連携先大学等との実施協議  
連携先大学の学生支援担当職員・教員等への講座  
【発達障がい基礎講座、体験談、社会資源（就労支援・相談機関等）】  
連携先大学学生支援室による学内アナウンス、学内での対象者選定  
仕事体験・企業実習受入れ先企業等の開拓

## 6. 実施スケジュール予定

- 7月～2月の8か月間で事業内容～を実施する。  
（月1～2回程度の頻度となるようプログラム構成する。）